

お客様紹介

株式会社ヨシダセイコー 津幡工場 様

(ISO 9001:2015、ISO 14001:2015 認証登録)

(取材者) 審査員 美濃 英雄
Hideo Mino

「旋盤・複合加工品のトータルパートナー」株式会社ヨシダセイコー様は、1952年の創業以来、石川県を拠点に機械加工の専門技術を磨き続け、最新のNC旋盤やマシニングセンタなどの設備を駆使して複雑な加工にも柔軟に対応し、建設機械、農業機械、油圧・空圧機器、自動車、産業機械、医療機器、半導体装置など、幅広い分野に高品質な部品を提供されています。2009年開設の大阪営業所では受託加工の窓口として、素材調達から機械加工、板金プレス、絞り品、射出成形、製缶溶接、組立までを一貫対応されています。

2007年にISO 9001、2008年にISO 14001を認証取得され、その後は複合マネジメントシステムとして運用されるとともに、事業活動に適した実践的な仕組みとして活用・維持されています。トップマネジメントの主体的かつ積極的関与が、各リーダーの自律的なリーダーシップの発揮や全社的な取り組みへつながるなど、その卓越した社長様のコミットメントは審査で高く評価されました。ISO 9001の定着により、多品種少量生産から大ロット生産まで幅広い品質管理を実現し、さらにISO 14001との相乗効果に



工場全景（石川県津幡町）

よって環境への配慮とコスト低減にも取り組まれています。また、自動化や省人化の推進により、生産性・品質の安定性向上と従業員の働き方改善にもつながられています。

今後も「ものづくりのプロ集団」として培われた技術力と柔軟な対応力を強みとして、多様なニーズに応える信頼されるパートナーとしてさらなる躍進を遂げられることを期待しております。



製造現場にて



金属加工部品

<https://yoshida-seiko.jp/>

連載
よみもの

審査員の心理

第43回（環境編）

「パフォーマンス評価（4）」

環境主任審査員 大村 敏夫
Toshio Omura

規格では、「9 パフォーマンス評価」の中に「9.2 内部監査」も位置づけられています。内部監査もPDCAの(Check)に相当し、改善すべき点を発見すると共に是正をするためのツールでもあります。

内部監査の充実度は、組織によっての差は大きいと感じています。内部監査を実施する内部監査員と被監査部署で監査に対応する人が、共にレベルアップしていくことが望ましいのですが、どこかのレベルで停滞していると感じることがあります。内部監査員は、内部監査員としての教育を受けているはずですが、その中で、規格の解釈や指摘の仕方を学んでいたでしょう。

内部監査では、逐条型監査(ISO規格の要求事項を項目ごと

に確認していく監査方式)と有効性監査(組織の目標達成にどの程度貢献しているかを評価する監査)という分け方がされ、逐条型監査から有効性監査に発展させることが望ましいと言われてはいますが、有効性監査でも規格要求事項の適合性を確認した上で実施されるべきだと考えています。内部監査員は、事前準備として、マニュアルや手順書で構成されたマネジメントシステムが規格要求事項に適合しているかを確認した上で、内部監査で確認すべき事項を計画しておくことが好ましいでしょう。管理責任者の内部監査では、全社のマネジメントシステムが規格の要求事項に従って適切に管理されているかが主な監査項目になるでしょう。部門の内部監査では、マネジメントシステムで決められた通りに活動が行われているか、という視点での監査になるでしょう。被監査部署でも、実施されている活動が、規格やマニュアル等で規定された何処に基づいているか、説明できることが好ましいでしょう。

内部監査員と対応者が、共にレベルアップしていけるように、審査の中で促すことができれば幸いです。

